

遠い北京 近い平壤



中嶋嶺雄
(東京外国語大学教授)

変革への対応に見る中国と北朝鮮の奇妙な非対称性

天安門事件とは何だったか

中国は、この六月四日に天安門事件一周年を迎える。いったい中国は現在どうなっているのか、これからどうなるのか。全世界が注目している。

天安門事件をもたらした中国の民主化運動は、中国の歴史にとって画期的なものであり、それは新しい政治意識にめざめた学生・市民・知識人たちによる、いわゆる市民革命的なカウンター・レボリューション「反・革命」であったと私は見なしてきた。

その意味で中国の民主化運動は、たんに当面の政治改革を求めただけではなく、中国共産党一党独裁権力そのものへの根本的な挑戦であったといつてよいであろう。そうであるだけに中国共産党当局は、鄧小平氏をはじめ、そうした動きを「反革命暴乱」と規定して、これを徹底的に抑圧したのであった。

一周年後の今日、中国民主化運動によって提起された問題は、なんら解決されることなく、当時の中国共産党最高指導者であった趙紫陽総書記は、事件後に失脚したまま、その行方もいまだにまったく分らない状況が続いている。

天安門広場の人民の波が中国当局にとって深刻であったの

は、ゴルバチョフ訪中を契機として、党内の権力闘争と民主化を求めた学生・知識人たちの大衆運動とが一挙に結びついたからである。それはゴルバチョフ・趙紫陽会談における趙紫陽総書記(当時)の、鄧小平・李鵬体制への訣別宣言となつて表面化し(この点について詳しくは拙著『中国の悲劇』、講談社、一九八九年、参照)、昨年五月中旬の中国は、一種の二重政権状況に陥つていたといつてよい。

そうしたなかで、六月四日のあの悲劇が起つたのであった。いま振り返ってみると、天安門広場に残っていたわずかに三千名ほどの学生を鎮圧するために、十万人の人民解放軍正規軍が銃撃をあげながら広場に突入し、そして、事件の前後には三十五万にものぼる正規軍が北京市一帯に展開されていた事実は、この事件の深刻な背景を物語っている。

それは、たんに学生を抑圧するためではなく、内戦一歩手前というような状況のなかで、共産党権力の保守派・原則派が趙紫陽以下の改革派を打倒し、中国の民主と改革を求める勢力を根こそぎ一掃しようとした、きわめて深刻な政治ドラマであったといつてよい。

その中国は天安門事件以後、徹底した恐怖政治を敷き、去る一月十一日の戒厳令解除以降も、首都・北京の治安は人民武装警察部隊と公安警察によって支えられている。天安門事件一周年を迎えた今日なお、徹底した警戒態勢を敷いているというのが偽らざるところである。

たとえば北京の拠点校であった北京大学は、天安門事件以後、学生たちを石家荘の人民解放軍根拠地に釘付けにしたまま、新入生がキャンパスに戻れないという状況が続いている。もう一つの拠点校である北京師範大学は、今日、全学生に朝から晩まで農業労働を強制している。他の多くの大学においても、国家安全部(省)や公安部(省)の要員がキャンパスに進駐し、民主化運動への徹底的な弾圧を行なっている。そうした態勢をとることによって、この五月から六月にかけての、すなわち五・四運動記念日、あるいは天安門事件一周年を迎える期間、学生たちが広場に立ち寄れないような状況をつくりだしている。

私自身、去る四月下旬から五月上旬の訪中によって、再び騒乱が起る余地さえないような警戒態勢下にある今日の北京の雰囲気を感じてきた。

五月四日の五・四運動記念日は、昨年、民主化運動の大きな高揚をもたらした日であったけれども、今年の天安門広場は、メーデー記念日の赤旗や、広場の中心に据えられた孫文の大きな肖像が目立つぐらいで、実に閑散としていた。

私はたまたまこの日、平壤から北京に戻り、広場の状況を見てみようとして、午後六時半ごろ、ホテルからタクシーに乗って広場へ行ってみた。せっかくの機会なので写真を撮ろうと思ったところ、タクシーの運転手が気をきかして人民大会堂の前に右折して車を止めてくれた。ところが、そこは右折禁

止であつたらしく、見ていた警官が立ちどころにタクシーを停止させ、運転手の免許証を取り上げてしまった。

この間、三十分近く運転手は帰ってこない。結果的には二十元の罰金ということで事なきをえたようであり、私は気の毒に思つてチップに十元をはずんだのだが、この間、人民大会堂の南側の角を右に曲つたところで車を止められたまま、私は一人で放置された。当然公安警察の訊問も受け、一瞬ギクリとしたのだが、そのときふと見ると、人民大会堂の南側の通りを、数十名単位の人民武装警察部隊が隊列を組んでは現われ、やがて広場を横切つて人民大会堂の反対側にある革命博物館のほうへ次々に消えてゆくではないか。

革命博物館は今日でも、人民解放軍や人民武装警察部隊の宿舎になっており、閉館状態になっている。そうした数十名の武装警察部隊の隊列が次々に、まるで手品でも見ているかのように、どこからともなく湧き出では、広場のほうへ消えていく。その数はおそらく数百名、実にいく組かの隊列が、そのようなことを私の目の前で繰り返していた。

おそらく、この時刻に広場にいた外国人人はほとんどなかったと思うので、私はそれを目撃した貴重な例外であつたろう。考えてみると、人民大会堂一帯は、北京の要人の拠点である中南海から地下道でつながっている。これらの人民武装警察部隊は、おそらくその日一日、広場でもしや何かハブニングがあつた場合に備えて、人民大会堂のなかか、その地下

道に待機していたのではないか。少しでも騒ぎが起れば、一斉に飛び出してきて彼らを抑えつける、という態勢ではなかつたかと思う。そこまで嚴重な警戒態勢をとらざるを得ない現状が、依然として首都北京には存在しているのである。

こうした徹底したやり方で民主化運動の抑圧をはかる反面、中国当局は最近、天安門事件に関わつて逮捕された活動家たちのうち二百余名を釈放した。そのなかには『光明日報』の女性記者として、民主化運動に大活躍した戴晴女史なども入っているが、一方では北京の政法大学の張小平教授のように、広場で学生たちに運動を煽動したかどで反革命煽動罪に問われ、懲役十五年が科せられるなど、硬軟両面の対処をしている。

そうしたなかでつい先般、北京師範大学の活動家の一人で民主化運動のスターだつたあの柴玲女史が、嚴重な警戒体制をくぐり抜けて中国を脱出し、パリに亡命した。このことは、中国当局のメンツをいたく傷つけたようである。

李鵬首相は、「中国は広いから、少しぐらい逃げる者があつても当り前だ」と語っていたが、実際には、中国当局は、民主化運動に関しては徹底した抑圧態勢をとり、公安部や国家安全部(省)が全国的な摘発態勢をとっていた。都市においては最も末端の組織である居民委員会、農村においては村民委員会を通じて、いわばジュータン作戦で摘発運動を行なっていたのである。にもかかわらず、柴玲女史が逃れられた

ということは、中国社会の内部に依然として、現在の共産党体制に抵抗する地下組織が、地縁・血縁のネットワークや、あるいは民主化運動への連帯のネットワークを通じて存在していることを物語っている。

いつ大衆反乱が起きても不思議ではない

こうして中国は、当面、いわゆる「四つの原則」を堅持し、社会主義の路線を断固として擁護すると主張しつつ、東欧やソ連の歴史的な変化、さらには隣のモンゴル人民共和国にまで波及した民主化の波を必死に防戦しようとしている。だが、はたしてこのような強権体制が、いつまで続くのだろうか。

とくに最近、過度の経済の引き締め政策によって、中国の経済活動はいちじるしく停滞してしまつた。農村人民公社

の解体のあとに出現した数多くの郷鎮企業は、中途半端な市場経済導入の矛盾をまともに受けて、次々に倒産、解散している。

他方、この間、一方で万元戸が出現したためもあつて、ひとたび農耕の場を離れて郷鎮企業に吸収された農村人口は、再び農業に帰ることもできない。そうした状況のなかで多数の失業者が輩出している。

中国には七、八千万から一億もの潜在的な失業人口——中国では「失業」のことを「待業」といつている——が存在し、彼らは開放政策のなかで鼓吹された勘定高き、いわば拝金主義に影響されて、少しでも多くの収入を得ようと中国各地を転々としている。そうした潜在的な失業人口が、いわば流民と化し、最近では「盲流」といわれるように都市になだれ込んだり、あるいは海外に脱出しようとする難民潮の圧力となつて、中国社会のなかに渦巻いているのである。

TOYO HOTEL

いい気分です。

おおきな心の満足を、お持ち帰りいただきます。

●禁煙ルーム開設 禁煙ルームをご用意しました。ご予約の際、お申し付けください。

- 大阪駅から3分
- 新大阪駅から4分
- 大阪空港から25分



東洋ホテル

大阪地下鉄御堂筋線中津駅直結
大阪市北区豊崎3丁目16番19号

ご予約は

- 大阪 TEL 06(372)8181
- 東京 TEL 03(561)8181

●フレンチシブホテルグループ案内所
札幌/011(241)4078 仙台/0222(24)3161
名古屋/052(561)3962 広島/082(245)1677
福岡/092(781)6107

たまたま今回私が北京で会った旧知のジェームス・リリー駐中国アメリカ大使も、中国のそうした流民は、いまや一億に達すると述べていた。アメリカ國務省当局も、この点を注目しているといつてよいだろう。

ジェームス・リリー大使といえば、彼は中国大使館に難を逃れた「中国のサハロフ」方勵之博士を保護している張本人である。昨年七月と十二月の、スコウクロフト米大統領特別補佐官の訪中による米中関係打開の秘密折衝では、当然、方勵之問題が話題となり、とくに十二月の訪中時には中国当局と、このことについての折衝がはかられたのだが、今日にいたるも解決のメドが立っていない。

中国側の条件に合わせて、アメリカ側も一定の妥協策を提案したようだが、結局、中国民主化運動のシンボルである方勵之という巨大な存在を、最高実力者の鄧小平が個人的にも憎悪しているらしく、そのために打開のメドが立っていないのだ。一方、アメリカの議会や世論は中国民主化の現状にきわめて厳しい態度をくずしていないので、この問題一つをとっても、米中関係は当面、膠着状態のままといわざるを得ない。

さらにまた中国は、過去十年間の対外開放政策によって借りまくった累積債務の支払い期をいよいよ迎えようとしている。一九九〇年にも一〇〇億米ドルに近い債務の返済を迫られるのであって、現にわが国の銀行とのあいだでも、一部、

債務の滞りが北京以外の地域で発生しており、中国全体でもかなり深刻な状況に立ちいたっているといつてよいだろう。中国を襲ったスーパー・インフレーションは、一時のようなひどい状況からは脱却しているものの、潜在的なインフレ圧力は依然として強い。財政危機の補填や、外貨不足の穴埋めのために、次々に発行される大量の人民元の氾濫のなかで、今後インフレ圧力は続くと思わなければならない。

このように考えると、当面、中国は強権体制のもとで事態を抑えつけているが、今後の中国経済の発展いかんによつては、いつ、どのようなかたちで大衆反乱が起きても不思議でない、という状況が潜在しているといえよう。

もとより、民主化運動の活動家たちも知識人たちも、あの六月四日の悲劇を体験しただけに、きわめて慎重な出方をするものと思われる。ましてや、鄧小平もまもなく八十六歳。鄧小平と並び称せられる同年配の陳雲も病弱。あるいは李先念、彭真らの長老も、軍を牛耳っている楊尚昆とともに、きわめて高齢化している。それだけに、これら革命第一世代があと数年のうちに影響力を失うであろうことを十分に考慮して、いわば「時間との戦い」を考えているものと思われる。

中国社会主義経済の行き詰りとともに、首都・北京ほかの都市に限定されていた民主化運動・自由化運動が、全国的なレベルに波及するかもしれない可能性が高いだけに、この点でもタイミングを考えているといつてよい。したがって、天

なりクローズアップされてきている。

将来、中国のトップを担うことになるかもしれない李瑞環の成長とともに、江沢民や李鵬とのあいだに新たな亀裂が目立ちはじめたり、こうしたグループは、いわば趙紫陽らの改革派との隠密の連携のもとに、中国の指導部を、今日の東欧やソ連の変化と見合ったかたちで革新しようという秘められた戦略を構想しつつあるという推定も成り立たないわけではない。こうした権力的角逐が、当面の中国の政治社会状況の混乱と停滞のなかで再び表面化しないともかぎらないのである。

このように考えると、天安門事件一周年に再び無用な力を結集するよりも、いまは冷静に耐えて、次の機会を待つべきだという意見が、中国の学生や知識人たちのあいだに根強いことも納得できよう。

こうして中国は、天安門事件一周年を表面的には平静に経

安門事件一周年はおそらく平静なまま推移するにしても、ことと次第によつてはいつ再び、下からの運動が爆発しないともかぎらないのが中国の現状だと考えなければならぬ。こうしたなかで、中国共産党中央の権力闘争を見ると、ここには早くも深刻な亀裂が目立っている。鄧小平氏はその背後にあって、こうした党中央の権力闘争をバランスしようとして見るかに見えるが、いわば天安門事件に手を汚した李鵬や、姚依林、喬石といった幹部たちと、天安門事件以後、党中央に席を占めることになった江沢民、李瑞環、宋平らの新しい政治局常務委員とのあいだの亀裂は、戒厳令の解除や、当面の経済引き締め政策をめぐるでも、かなり明確にその輪郭を描くことができる。

李鵬と江沢民という両首脳間の対立がどうなるかが当面の焦点であるが、同時に最近では、新しい指導者のなかで抬頭の著しい、前天津市長の李瑞環政治局常務委員の存在が、か

大修館書店

大漢和辞典

全13巻

別巻語彙索引

諸橋轍次著／修訂 鎌田 正・米山寅太郎

新装普及版

全巻

熟語が五十音順で検索できる画期的な「語彙索引」付
B5判上製函入 全巻セット定価173,040円(税別)
総計16,900頁 (語彙索引含む)

語彙索引

新たに「大漢和辞典」が
一層引きやすくなります。

〈別巻〉定価12,360円(税別)

大きな文字で読みやすい豪華大判版

大漢和辞典 修訂版

現金定価227,630円(税別)

渡部昇一エッセイ集

文明の余韻

—アングロ・サクソン文明ノート

シャープな文明批評で知られる渡部教授が、評判の映画「ベストセラー」小説「文人の伝記」などを素材にして綴った異色あふれる随筆集。定価1,960円(税別)

101東京・神田錦町3-24●内容見本屋

過するであろうが、その体制にはさまざまな亀裂が見られ、また、根本的な問題がなら解決されないまま矛盾が深刻化し、欲求不満が潜在していると見なければならぬ。

今後中国は東欧・ソ連の歴史的変動の影響や、台湾、香港など周辺の同じ中国社会の経済的・社会的発展の強いインパクトを受けざるを得ず、そうした外圧に耐えることにもやがて限界がくるにちがいない。

北朝鮮——奇妙な静寂

このような中国を通過して、私は去る四月二十八日から五月四日まで、北朝鮮つまり朝鮮民主主義人民共和国の首都・平壤を訪れた。

すでに十数回にわたって韓国を訪問している私にとって、平壤訪問は初めてのことであった。私たちにとって国交のない北朝鮮を訪れることがきわめて難しいばかりか、北朝鮮側も、これまでは外国の訪問客に固く門を閉ざしてきたからである。今回の平壤訪問は、日本国際政治学会訪朝団として、私たちが組織したものであり、私はその団長として、八名の同僚とともに平壤を訪れたのである。

多くの人は、金日成独裁体制下にある北朝鮮が、まさに中国とは違った意味での権力継承の時期にきていて、こうした権力継承が円滑に進むものかどうかを危ぶんでいる。さら

には金日成・金正日父子権力継承体制という、共產主義体制においてさえ許容し得ないような家父長体制が、最近のルーミアのチャウシェスク王朝の崩壊、そして東欧からソ連にいたる社会主義の地殻変動、そしてモンゴルにまで及んだ変革の嵐のなかで、もちこたえ得るものかどうかを注目している。

次は中国か、それとも北朝鮮かというのが、多くの西側の人たちの一致した見方ないしは期待だといってよいのかもしれない。東欧にはじまり、ソ連、モンゴルを経過した脱共产化への歴史的な動きが、最後に中国に及び、そして北朝鮮の現体制が崩壊すれば、まさに一つのドラマの序曲からフィナーレまで、完結した筋書きが描かれるからである。

しかしながら、私自身、今回、平壤を訪れた印象を率直に語るなら、一口にいうと、北朝鮮はきわめて例外的な状況にあるのではないかと、ということであった。それは、徹底した個人崇拜と、徹底した独裁体制下にあつて、政治的な亀裂や、下からの反乱などが当面はまったく許されないほどの、自己完結した閉鎖的な政治社会体制ができあがりつつあるのではないかと思われたからである。しかも、それもたんに共産党、つまり朝鮮労働党の社会主義一党体制下の独裁としてではなく、きわめてユニークな「チュチェ（主体）思想」によって、国家的な規模での倫理・道徳的な指導体制が、そこに確立しているのではないかと思われた。

平壤は、予想に反して巨大な都市であつた。いたるところに金日成主席を讃える巨大なモニュメントが立ち並び、また同時に、大規模な都市建設の象徴とも思われるような建造物、高層アパート群、巨大なホテルなどが建っている大都市である。

大同江に面した平壤は、そのむかし柳の都、「柳京」と呼ばれただけあつて、柳の新緑がひととき美しい明るい都市景観を呈しており、国中が一種のサナトリウムのような清潔感に満ちているといつても過言ではない。

私たちは、たまたまメーデー式典に参列したが、大同江の中洲にある、そのメーデー競技場は、十五万人収容の大鉄傘によって構築された巨大なスタジアムであつた。

こうした状況のなかで、いつてみれば約二千万の民衆が、金日成崇拜とチュチェ思想によって完全に教化され、一種の宗教的雰囲気の中に自己陶醉しているという感じである。

戦時中の皇国日本が長期に持続しているような感じだと考えることもできよう。それはまさに金日成王朝であり、あらゆるところで金日成崇拜のための神話がつくられている。もとより、パリの凱旋門よりもはるかに大きい金日成凱旋門にしても、あるいは巨大なチュチェ思想塔にしても、すべてが金日成個人の業績と結びつけられている。たとえば、チュチェ思想塔の建造につかつた花崗岩の数は二万五千五百五十個。金日成の七十歳の誕生日に合わせて、それに三百六十五日を掛けた石の枚数で建造されたという。凱旋門は、金日成主席が平壤を去つて、中国の地で抗日闘争に突入した日から、第二次大戦後、平壤に凱旋した日までをかたどつて建っている。これらのことは、逆説的に見ると、いつの日か、金日成主席がすべて国家を私物化したことの証明としてつくられていくのではないかとさえ思われるほどだ。

いずれにせよ、こうした雰囲気の中で、北朝鮮はまさに



自然、街、人間

みんな生命を宿している。

地球が生きている限り、自然、街、人間はつねに温もりを持っている。
なかに影響しあい、ふれあう時、そこには、はかり知れないエネルギーが生まれる。
前田建設工業は、かけがえのない温もりを育むオルガナイザーでありたい。

前田建設工業株式会社

本店／千代田区富士見二丁目10番26号
〒102 TEL.03(265)5551(大代表)
支店／札幌 仙台 東京 横浜 北陸 名古屋 大阪 福岡 広島 四国 福岡 香港

儒教的な権威主義体制、儒教的な家父長体制のなかにあるといつてよいだろう。

ではいったい、こうした奇妙な静寂を保っている閉鎖的な国家をつくり上げた、その金日成体制の理念であるチュチェ思想とは何なのか。

私たちは、チュチェ思想の考案者ともいわれ、金正日書記の指南役、そしてまた朝鮮労働党最高幹部（中央委員会書記）として、この国の最高決定機関である最高人民会議前議長をつとめ、金日成総合大学の学長を十五年にわたってつとめた黄長燁（ホワン・ジャンヨブ）朝鮮社会科学者協会委員長と、延べ八時間半も膝を詰めて語り合った。洋の東西の学問に通じた黄委員長は、日本語で私たちと話したのだが、人間改造を柱にしたチュチェ思想は、いわば人間を信ずる宗教だ、と彼は発言していた。そのかぎりにおいて、チュチェ思想はマルクス主義を逆に回帰し、史的唯物論を否定する唯心論、あるいは観念論だといつてよいだろう。

現に私が、「それではマルクスよりも、フォイエルバッハのほうが面白いのではないですか」というと、彼は膝を叩かばかりに、「フォイエルバッハのほうがはるかに面白く、優れている」と明言した。社会主義・共産主義を建前とする国家の最高イデオログの発言としては、きわめてユニークなものだといえよう。

個人崇拜についても、主席―党―大衆が一体となった、一

つの完結した生命体だという論理で説明しようとする。私自身は、チュチェ思想をもつてしても、個人崇拜と親子の権力継承の体制を納得することはとうていできなかったが、ここまで徹底した個人崇拜と、金日成神話の創出というなかで、ソ連がどうなろうと、中国がどうなろうと、われ独り行かんと、唯我独尊的に自立的な経済体系および自立的な指導理念による徹底した強権体制を保持している状況は、今日の世界ではまれに見るものだといわなければならない。

要するに、二千万国民が一種の新興宗教の教祖とともに自己陶醉しているといった感を拭えなかった。

こうした北朝鮮は、平壤の壮大な景観にもかかわらず、そしてまた、公共投資の大規模な完遂にもかかわらず、生活実感の乏しい町であり、人も少なく、いわばキムチの匂いをどこからもまったく嗅ぐこともできないような人間味の乏しい人工的な都市であった。夜になるとしばしば停電することや、一週間の滞在期間中、ついに食料を販売している現場を見ることができなかったことを考えても、かなり厳しい経済状況にあると見なければならぬ。

とはいえ、人々の表情はきわめて明るく健康的で、そのことがかえって不気味なほどであり、一般の人々がその日の糧に困って飢えているという状況ではまったくない。これほど見事な地下鉄は世界にもないと思うような地下鉄も市内に動いており、たまたま気候のいい五月には、あちこちで野遊会

と称して、ピクニックをしている風景にもしばしばぶつかつた。また同時に、一種の臨戦態勢にあるだけに、あちこちに軍事的な、兵営国家的な体制を感じた。河原の土手から急に、重い銃を抱えた年若い男女の兵士たちの隊列が出現するといった軍事訓練風景にぶつかることがしばしばであった。

こうした北朝鮮を表面的に見るかぎり、そこには当面、民主化運動はおろか、党内の深刻な権力闘争が起る余地もないように見られたのである。もとより朝鮮労働党には、この間、さまざまな異分子が存在したのであるけれど、それらは徹底的に排斥されてしまっている。

こうしたなかで、北朝鮮はその国際的孤立化のただなかで、自らの新しい友を求めようとしているかに思われた。

黄委員長は私たちに、「日本は本当に大きな力をもつようになつた。その日本の学者の使命は大きい。どの国の学者よりも、日本の学者に会って、憂いを分かち合いたい」と述べて

いたが、この言葉の背景には、今日の社会主義の変貌にたいする深刻な危機感とともに、いかに自らが孤立化しているかという状況が反映しているといえよう。

北朝鮮は決してソ連とも中国とも、うまくいっていないようであり、むしろ、そうした出口のない状況の突破口を、アメリカとの関係打開に求めていることを、私は今回確認した。北朝鮮の外交問題の責任者、許鎔・労働党政治局員が近々訪米するかもしれないというニュースは、ややスベキイレションのきらいがあったけれど、あなたが憶測記事とばかりはいえないように思われ、アメリカとの学者の交流などは、より積極的に進めようとしているかに思われた。

こうして、北朝鮮滞在の一週間は、今日の社会主義世界の歴史的な変動のなかで、そうした変動とは無関係に存在するかに思われる奇妙な実態がそこにあることを認識せざるを得ないものとなつた。

エレキこぼなし 2

カエル スープと 電気。

18世紀末のころ、イタリア
ボロニャ大学のガルヴァニ教授
夫人は病氣のため、滋養に
蛙スープを飲んでた。

ある日、夫人が蛙を料理すべく
たまたま蛙の足とナイフを
夫の机に置きました。ところが、
そばで動いていた起電機の花
火が出るたびに、突然蛙の足
がピクピクと動き始めました。

このことを夫人から聞いた
ガルヴァニ教授は、生来の研
究熱心さから多くの実験を行
ない、蛙の足に電気が含まれ
ていると勘違いをして「動物
電気」と名づけました。しか
し、この彼の研究が「電流」
発見のきっかけとなったのです。



良質で安定した電気の供給と設備
の効率的な運用、管理をめざし、
日新電機はソフトからハードまで、
新技術の開発に努力しています。

人と技術の未来をひらく

日新電機

本社 京都市右京区梅津高町47 千615
☎ (075) 861-3151

結論的にいえば、少なくとも金日成主席が健在である限り、いまの体制が当分は続くのではない。言葉を換える、もしも金日成体制から金正日体制への移行が近い将来行われるときには、きわめて難しい問題が起る可能性があり、一挙に今日の体制が崩れていくことも考えられよう。

金日成主席が存在しないときの金正日体制が、はたして安定的に推移するかどうかは、きわめて疑わしいだけに、そこから二つの選択肢が考えられる。

一つは、金正日氏が、金日成主席とともに批判されて失脚し、朝鮮労働党が一挙に解体するかもしれないという方向。他の一つは、親子の権力継承ということの異常を知りつくしている金正日氏が、「北朝鮮のルーマニア化」を避けるために、自らフレキシブルな政策を模索することによって、ソフトランディングをはかっていこうとする方向である。

そしてもし、この後者のようなかたちが進むならば、それは台湾における、蒋介石独裁体制から蔣経国権威主義体制への移行にかなり近い方向であり、そして、蔣経国晩年の一種の民主化への転換から今日の李登輝民主主体制への進展に近いものになるかもしれないと私は考える。

もとより、その場合には、北朝鮮の社会主義体制自体が大きく転換してゆくであろう。

いずれにせよ、われわれのすぐ近いところに、きわめて特異な北朝鮮の現実が存在し、思っていることを、われわれ

もちろん表面向きは、金日成主席がしばしば強調するように、断固として社会主義を擁護する、そのかぎりにおいては中国の現体制を強く支援する、ということだろうが、それは外面的なことであって、内部的には、中国からもソ連からも離れつつあるといってよいだろう。

一方、ソ連も最近では韓国との関係を非常に重視し、まもなくソ連との外交関係さえ結ばれるかもしれない動きになってきた。すでに東ドイツ以外の東欧諸国は、韓国に大使館を置いた。この秋にも、ソ連が外交関係を結ぶならば、中国もそれに続きかねないというところまで進みつつある。

北朝鮮側は、ソ連や中国はそんなことは絶対しないだろうといっていたが、北朝鮮は中国やソ連が韓国に急速に接近しつつあることに内心強く反発しているものと感じられた。

しかしながら北朝鮮の最大の弱点は、この国がかなりの鉱物資源や、さまざまな農工業資源をもちながらも、石油に事

は決して無視することができない。一般に平壤は北京よりもはるか南にあるかに思われる遠い存在であるが、実際にはずっと日本に近く、地理的にも平壤は、北京と東京の間にあることを、われわれはしばしば忘れていたのではなからうか。

危機の中国、安定の北朝鮮

こうして、中国、北朝鮮の現地を、この微妙な段階の時期に訪れることができたことは、私にさまざまな問題を考えさせてくれた。

もちろん中国と北朝鮮は、国家関係としては「唇齒輔車」といわれる親密な関係が、朝鮮戦争以来、表面上は続いている。だが、先ほど見たように、いまや北朝鮮は決して中国に兄事してはいないと思われた。もちろんソ連に対しても、かなり厳しい批判を展開しており、朝鮮戦争以来の積年の対ソ不信は、今日でも続いているように思われる。

チュチュエ思想による自立の政治社会体系を模索するかがり、歴史的にも伝統的にも、あまりにも強い影響を残してきた中国の影響から脱却することが、まさに主体性の確立につながる。より本質的には、中国の影から逃れようと必死になつて模索した結果が、今日のチュチュエの立場だといえるかもしれない。

欠くということであって、ソ連および、主として中国に依存しているエネルギー体制からすれば、表立って中国、ソ連を批判することはできないというジレンマにある。それだけに、北朝鮮は日本との関係の打開を求め、それ以上にアメリカとの関係打開を求めているといつてよいだろう。

私は韓国がソ連や中国に近づき、台湾と冷たい関係になりつつあるだけに、北朝鮮にとって最も相互依存度の高いのは台湾ではないか、台湾にある中間材や消費物資は、北朝鮮がいちばん欲しいものではないか、台湾も李登輝総統のもとで、きわめて知的な政治を行いつつある、その台湾と関係を強化してはどうかと黄委員長に提案してみた。頭からそんな提言を否定し、反発するかと思つたら、まったくそれを批判せず、真剣に耳を傾けていたことが印象深い。

わが国に最も距離の遠い北朝鮮と台湾。これはいずれも日本のかつての植民地統治下にあり、そこには日本語で物事を

住むだけの住宅から
住みながら
活用する住宅へ。

住活ローン

〈大垣共立〉



最高5,000万円まで
最長30年
おトクな低金利

住宅ローンならOK

マイホーム型

お買いもち自由

フリー型

借入額が入れ、返済は返済

カード型

ライフステージに合わせたマネープランを。



大垣共立銀行

■本店/大垣市郭町3丁目98番地
■支店/岐阜・愛知・三重・滋賀・
東京・大阪・香港
計122店舗

考える人たちが現存している。それなのに日本外交は北朝鮮とも台湾とも断絶したままである。こんな身近なところと断絶したままである日本は、これでよいのかと、逆説的にいろいろ私は考えざるを得なかった。そうしたなかで、近い将来、平壤と台北との国際関係が、アジアの舞台に表面化してこないともかぎらないようにも思われた。

そこで最後に、そうした北朝鮮を中国と比べてみて、中国共産党、朝鮮労働党という二つの主導政党の、いわばレジティマシー（正統性）の根拠いかに、を考えてみたい。

中国ではいまや、民主化運動に立ち上がった学生・知識人はもとより、多くの国民も、まったく共産党を信頼していない。共産党のために、むしろ生活が悪くなった、共産党が支配してきたがゆえに、台湾や韓国にも遅れた、という意識が広まっている。

そして、人民公社運動、「大躍進」政策、文化大革命、開放政策の曲折、さらにまた天安門事件と、こうした経過を経て、いまや中国共産党の権威は地に落ちていく。タクシーに乗っても、学生たちと語っても、だれもが共産党を批判し、共産党ではもうだめだと公言するようになった。

それをただ力によって抑えているにすぎないのであって、この点では、中国における共産党のレジティマシーは、過去四十一年間の政策の誤謬と、社会主義建設の失敗のゆえに、そしてまた共産党がこのところ幹部の特権や「官倒」と見ら

要だと思われるのである。

ただ、いずれにしても、こうした北朝鮮自身が、ひとたび外の世界にさらされ、国民が新しい意識に広く目ざめたときには、かつての毛沢東体制の崩壊のように、ガタガタと崩れていく可能性はある。いってみれば、まだ中国の毛沢東時代、純粋な毛沢東崇拜が通用した時代に、今日の北朝鮮の政治的・社会的段階があると考えたらいのかもしれない。

こうして北朝鮮と中国のあいだには奇妙な非対称性が存在することを発見したのも、今回の北朝鮮訪問の一つの収穫であった。

もとより、われわれが視察した場面はきわめて限られており、賓客としては管理された旅行のなかにあったのであるから、短期間の平壤滞在によって北朝鮮の全体像が明らかになったなどというつもりは私には毛頭ない。

ただ、一種偽善的なと思われるほどの純粋性を固持してい

れる腐敗現象などを見せたことによって、すっかり失われてしまった。

ところが、これを北朝鮮において考えると、どうか。

最近の朝鮮労働党は官僚主義の一場運動を再び強化しているけれど、少なくとも北朝鮮には、文化大革命のような国を揺がすような大衆運動による社会主義建設の失敗がなかったと思われる。

そしてまた、徹底した独裁体制であるうえに、二千万規模の閉鎖国家であることから、外からの情報のインプットは完全に遮断されていて、人々は外の世界を知らない。金日成礼讃の巨大なモニUMENTがつくられる一方で、韓国はいまやアメリカ帝国主義のクビキのもとで反米運動が広がり、巨大な財閥である「現代」グループにも深刻なストライキが起っている、学生たちはみな反政府的なムードに包まれている、と徹底した宣伝がなされている。そうした状況が持続しているかぎりにおいて、朝鮮労働党のレジティマシーは依然として保たれているのではないか。

内心では金日成・金正日父子の独裁体制を受け入れていないと思われる人たちにおいても、今日の朝鮮労働党が、たとえば汚職、腐敗などの影をあまり見せないこともあって、中国共産党におけるようなレジティマシーの危機に陥ってはいないと見ているようだ。だとすれば、この北朝鮮が金日成・金正日体制の崩壊を待つまでには、いましばらくの時間が必

る無菌状態の国家であるだけに、むしろわれわれは、北朝鮮との関係をさまざまなレベルで強化拡大することによって、いずれこの国に訪れるであろう変化に際しての免疫をつくりだすためにも、北朝鮮との交流が必要ではないかと思われる。

今日、南北対立が厳しい状況にあるけれど、ベルリンの壁が一瞬にして崩れたように、何らかのきっかけによって南北朝鮮が一挙に一体化することになるかもしれない。

それが「高麗連邦」なのか、「朝鮮共和国」なのかは別として、そのときには、ひょっとすると日本にとっても、きわめて手強い、反日構造が根強く存在する、厄介な隣国ということにもなりかねない。

そうした状況を避ける意味でも、むしろわれわれは、北朝鮮に対して、日本の窓口をもっと積極的に開いてゆく政策をとるべきときではないかと私自身は考えている。

あなたの買がスケジュールを知らせるシステム・クロック

レーキング

ダイナマナー

サテライト・システム・クロック
は、あなたのスケジュールを知らせるシステム・クロックです。
あなたのスケジュールを知らせるシステム・クロックです。
あなたのスケジュールを知らせるシステム・クロックです。
あなたのスケジュールを知らせるシステム・クロックです。

Saitek

18,000円 (税別)

株式会社
東京港区新橋1-3-20 606